(公表用様式)

業務再点検結果報告

組織名	関東森林管理局 天竜森林管理署	連絡先	050 - 3160 - 5670
所管する業務の概要	国有林野の管理経営、民有林の森林整備等の指導、治山事業の実施等		

1. 基本的な心構え・行動	
・ 現在行っている取組や工夫	・ 点検によって得られた課題とその改善策
(1) 業務における心構え ・ イベント等の実施において、署全体で応援態勢を組むなど業務の効率的な推進に取り組んでいる。 また、個々の事業遂行に当たっては、係間で連携・協力体制を取りながら取り組んでいる。特に、長期出張や休暇の前には、各業務の再確認、打合せを行い円滑な推進に取り組んでいる。 ・ 外部の者との対応に当たっては、接遇マニュアルを参考に常に丁寧な対応を心がけるようにしている。 また、数課に跨る案件に係る対応に当たっては、それぞれの担当者も同席して対応している。 (2) 農林水産業の振興と消費者利益の関係 ・ 素材を計画的に供給することは、木材価格の安定、ひいては消費者の利益につながることから、事業の計画的な進行管理に取り組んでいる。 ・ 工事施工に伴い濁水が想定される場合は、施工の時期や方法について、事前に河川漁業関係者と調整を行っている。	・ 各課（係）等の年間業務計画を整理し、署員全員で情報を共有する必要がある。 ・ 請負業者と一般者に対する接遇を比較した場合、無意識のうちに対応に差が生じやすい傾向がある。 ・ 政策外交員としての訓練の必要性を感じるとともに、担当する業務内容とその責任範囲を確実に認識するための指導が必要である。 ・ 事案の解消（理解を得る）には相当な時間を要する場合が多いため、早期の情報提供、調整に取り組む必要がある。

(3) 国民の意見、要請、苦情に対する姿勢 - 崩壊等の情報提供があった場合、事実関係について早急に現地確認し、対応するよう心がけている。 また、国有林の隣接農地に係る危険・支障木の処理要求等についても、丁寧な対応を心がけている。 - 事業実行箇所、一般車両やハイカーの安全確保の目的で併用林道を完全通行止めにしたところ、通行者から苦情があったため、事業の調整を行い、休日や直接影響の無い箇所での事業日には開放するなどこまめに対応した。	- 通報者は、国の制度等について知識の乏しい場合が多いことから、対応の可否等について親切丁寧に説明し、理解を求めるとともに、対応できるものについては、早めに着手する必要がある。 - 意見や苦情を安易に受け入れるだけでなく、慎重な判断や丁寧な説明で相手方の理解を得られるよう努める必要がある。
(4) 国民への情報提供姿勢 - 国有林見学会など、一般の方が参加するイベントを開催し、国有林の情報を提供している。 また、地元自治体等と連携した森林ボランティアや環境教育などを開催しており、配布するチラシや資料は、関係する自治体等とすり合わせを行い、分かりやすく簡潔なものとするよう心がけている。 - 施工地を図示した図面を作成し、各箇所毎の施工内容が説明できるよう資料を整えている。	- 一般の方が国有林に対して、どのような情報提供を求めているかアンケート等を実施する必要がある。 - 常に最新の施工中の写真を揃え情報提供できるよう準備しておくことも必要である。

2. 政策・事業等の企画立案・推進	
・ 現在行っている取組や工夫	・ 点検によって得られた課題とその改善策
(1) 政策のニーズ等の把握に向けた取組 - 国有林の出材が集中することにより、市場での民有林等の出材制限や価格の低下を招いたとの批判があったことから、年度当初に市場や森林組合等との打合せ会議を行い、情報提供・意見交換等を行った。また、その後は、地域の木材市場等に足を運び、木材や製品の需給動向を把握している。 - 市町村長有志協議会や事業説明会（地域の行政機関等）を開催し、国有林に対する意見・要望等を聴取している。 - 地域の猛禽類保護団体に対し事業説明を行い、野生動物	- 事業の計画的発注や木材の需要動向に応じた販売に努めるとともに、採材研修を開くなど、常に市場から求められる素材の提供に努める必要がある。 - 情報公開を十分に行い、国民からの幅広い意見の集約が可能となるような体制の見直しが必要である。 - 年間計画と異なる突発的な事業が発生した場合は、そ

等の保護と事業実施の調整を図っている。	の都度情報提供等が必要である。
(2) 関係部署との連携強化のための取組 ・ 懸案事項の対応については、担当者任せにすることなく、関係者全員で意見交換を行い、対応方針の共有化を図っている。 ・ 工事の計画・発注時に関係者に連絡し、必要な手続き等問題点の把握、対応策等について調整を行っている。 ・ 事業発注に当たり、民有林事業との競合で不調に終わったケースがあり、発注の調整や早期発注に努めている。	・ 情報を共有する体制の整備が必要であるとともに、署内で決定できる範囲は限られていることから、上局と相談しながら進める必要がある。 ・ 更なる連携強化を図るため、関係する業務の計画等を事前に把握し、関係者間で混乱が生じないように進める。 ・ 事業時期の重複を避けるため、日頃から、関係市町村や森林組合等との情報交換を緊密にする必要がある。
(3) 国民への政策等の説明方法 ・ 国有林見学会等の場で、施工地の紹介や施工の目的・効果について説明している。	・ 専門用語が多いため、理解されない場面も見受けられることから、資料も含め、分かりやすいものにする必要がある。

3. リスク管理	
・ 現在行っている取組や工夫	・ 点検によって得られた課題とその改善策
(1) リスク管理の手順・ルール ・ 連絡体制を整備しているが、先般の地震発生時に休暇中の職員との連絡に手間取ったこと等から、連絡体制について、全職員に改めて周知した。 ・ 事業実施に当たり、保安林協議等の有無について署内関係者と疎通を図り、手続きの漏れが生じないように一覧表による整理を行うなど未協議防止を図っている。	・ 連絡体制を自宅にも常備する必要がある。 ・ 早め早めにチェックすることが重要であり、関係者間での更なる情報の共有を図る必要がある。 また、請負業者との連携・疎通が重要となってくることから、請負業者への指導も徹底する必要がある。
(2) 過去の失敗や教訓の活用 ・ 昨年度、複層林への誘導伐（択伐）を実施したが、植栽面積の確保に苦慮したため、今年度は、現地で関係者による検討会を開催し、伐採方法について意見交換を行った。 ・ 造林事業で、本数調整伐から保育間伐に変更になったこ	・ 間伐マニュアル等を活用した勉強会を行い、現地の状況に応じた手法の選択等について共通認識を持つ必要がある。 ・ チェック機能を強化して、未協議伐採の防止を図る必

とにより、保安林の未協議伐採が発生しそうになった。

要がある。

4. 食の安全に関する取組

・ 現在行っている取組や工夫

- ・ 直接的には業務を所掌していない。
- ・ 治山事業による土砂安定等が洪水等を調整し、川下の農業生産への悪影響を低減しており、食の安全に寄与している。

・ 点検によって得られた課題とその改善策

- ・ これまでに流出した土砂により河床が上昇傾向にあることから、河川を管理する部局による対策が必要である。

5. その他の重要な取組

・ 現在行っている取組や工夫

- ・ 原則として毎週の各課長等打合せや隔月の定例出署日を設定し、各人の行動予定や事業予定について情報共有を図っている。
- ・ 署内で屈託無く意見等が言え、円滑に事業が進められるようコミュニケーションを図り、明るい職場づくりに努めている。

・ 点検によって得られた課題とその改善策

- ・ 署員全員で情報を共有する必要がある。